

令和5年度指定管理者モニタリング評価表

施設名	羽咋市老人福祉センター	所在地	羽咋市鶴多町亀田17番地
指定管理者	社会福祉法人 羽咋市社会福祉協議会		
住所	羽咋市鶴多町亀田17番地	選定方法	非公募
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
指定管理料	14,004千円(令和5年度決算額)		
評価担当課	地域包括ケア推進室		
年度重点目標	各町で運営しているサロン等への積極的な呼びかけによる新規利用者の開拓や、教室等の再開・充実により、コロナ以前の利用者数への回復を図る。		

評価項目		評価する内容の詳細	評価		確認方法	備考
			中間	年間		
1	職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A	A	書類	勤務日誌確認、出勤簿は社協にて保管
		事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A	A	書類	個人情報等、救急法、接遇等の研修実施
		指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A	A	書類	すべての再委託については市へ届出をしている。
2	施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A	A	書類	管理台帳確認
		整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	A	A	現地	コロナで休止していた利用者による奉仕作業も再開。運転手による剪定も行っている。
		法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A	A	書類	管理台帳確認
		保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A	A	書類	適切に実施
		備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A	A	書類	管理台帳確認
3	サービス向上への取組状況 (アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	A	A	現地	社協のホームページ・SNS、市広報、各種教室、チラシ等で行事等の啓発
		特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A	A	聞き取り	なし
		利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A	A	書類	7月実施済(7/10～28)利用状況、健康状態等も把握
		苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	A	A	聞き取り	苦情だけでなく、各種要望に可能な限り対応。各教室の参加者が減少しており存続に向けた取り組みを支援。
4	防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A	A	書類	連絡網整備済。訓練は年2回(7月、11月)実施。消防署の立会い依頼。
		リスクに応じた保険等に参加しているか。	A	A	書類	施設、バスに関する損害保険は市で加入、奉仕作業はボランティア保険加入、不特定多数の行事は未加入。

評価項目		評価する内容の詳細	評価		確認方法	備 考
			中間	年間		
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか	A	A	現地	ロッカーに施錠して保管
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A	A	書類 (聞き取り)	書類関係は社協にて保管 経理は区分けして処理
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	A	A	書類	問題なし。
		料金等の収入が適正に得られているか。著しい増減がある場合は、その原因は何か。	A	B	書類	未収金なし。利用料金は別紙参照。
7	施設利用状況	施設の利用が十分に行われているか。利用者数、施設稼働率等に著しい増減がある場合は、その原因は何か。	A	A	書類	まん延防止解除により入浴利用者が増加し、eスポーツ教室の開催や開会記念祭の再開により来館者が増加していたが、震災の影響で1月以降は減少。
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A	A	書類	3ヶ月に1度月報提出(3ヶ月分)
9	アンケート調査意見及び対応	アンケートによる意見は、浴場に関係するものが多かった。マナー等については掲示板で対応、備品等に関することについてもできる限り対応している。				
10	今後、検討・調整が必要な事項	利用者の年代のピークは、男女とも80代前半となっており、高齢化が進んでいる。eスポーツや書道教室等が利用者の中でも若い年代の利用者が多いことから、ニーズの把握を行い、新イベント・教室を開催するなど、興味、関心、生きがいづくりにつながる事業や運営に努める。今年度Wi-Fiの整備を実施し環境整備を行ったので、これからの時代に高齢者が対応できるようにスマホ教室やオンライン交流会等の開催についても実施していく必要がある。				
11	今後の管理方針	全体的に、施設や設備等の老朽化が激しく、修繕箇所が頻発しているが、施設の修繕については、公共施設個別施設計画に基づき検討する。また、利用者が高齢であり、利用度が減ってきている。60～70代の若い利用者を増やすため、魅力ある教室を企画し、まずは施設を利用してもらい今後の利用者の増加に繋げる。高齢者だけでなく、障がい者などの利用も対応していく。				
総合評価		中間評価	年間評価		令和4年度	令和3年度
		A	A		A	A